

# 第3学年 算数科学習指導案

日 時 平成14年11月13日(水) 第4校時  
場 所 美濃加茂市立太田小学校 3年1組教室  
授業者 畑中 裕史

## 1. 単元名 ぼうグラフと表

## 2. 指導の立場

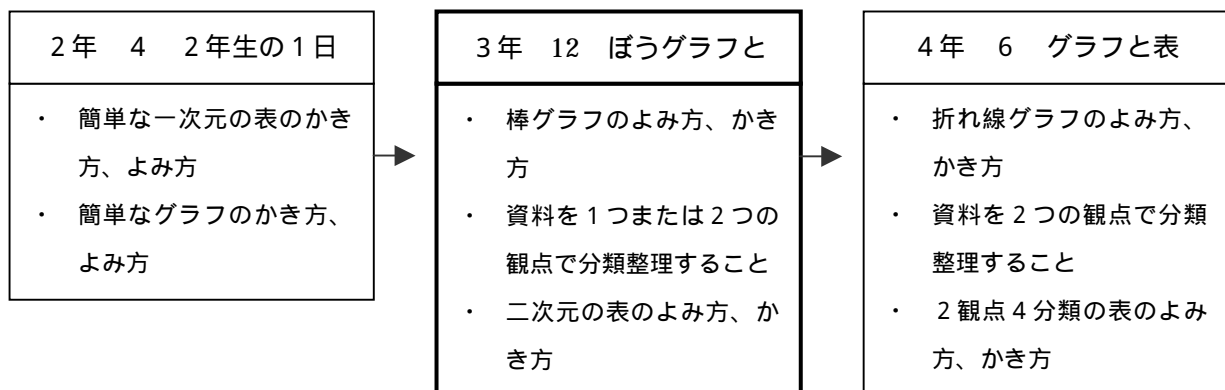
### (1) 単元について

本単元は、学習指導要領に次のようにある。

#### D(1) 資料の整理、表とグラフ

- |   |
|---|
| (1) 資料を表やグラフで分かりやすく表したり、それらをよんだりすることができるようにする。<br>ア 日時、場所などの簡単な観点から分類したり、整理して表にまとめたりすること。<br>イ 棒グラフのよみ方及びかき方について知ること。 |
|---|

また、他学年との関連は次のようである。



### (2) 児童の実態

男子12名、女子18名、計30名の学級である。どの子も、集中して話を聞いて学習に取り組むことができる。算数科の授業に対しても、同様に取り組むことができる。授業導入時に行う「百マス計算」では、多くの子がベストタイムを出すために、意欲的に取り組むことができる。乗法の計算では、2分以内に約10名、3分以内には殆どの子が終えられるようになった。11月からは、加法、減法各50問の百マス計算に取り組んでいる。挙手や発言の様子を観ると、間違えることや、分からないと言うことに恥ずかしさを感じる子が依然として多く、意欲的に挙手発言し、意見を交流する姿が少ない。しかし、少数ではあるが、既習事項を駆使して課題解決の見通しや自分の考えを持つことができる子も見られる。現在は、そのような子の姿を広めていくために、児童同士で教え合う活動を重視して指導している。

また、本単元で用いる学級遊びに関しては、週2回行っている。学級のまとめりや、普段遊ばない子と遊んで仲間のよさに気づくことを目的に行っている。しかし、学級全員の希望する遊びを行うことは難しく、どの子も楽しく仲間と遊ぶというようには至っていない。

### (3) 本時について

児童の実態でも述べた「学級遊び」の現状の中で、学級遊びを計画する遊び係をはじめ、多くの子が学級遊びの遊びに関心を高めている。そこで、本時は、子ども達の関心が高い日常の事象（学級遊び）のアンケート結果を資料として展開することにする。

まず、つかむ段階では、同じ学年の3組で1週間前に行なわれた「好きな学級遊び」アンケート結果を提示する。この結果からは、どの遊びを何人の人が好きなのかが分かりにくいことを指摘し、分類整理し、よみ取りやすいように表そうという意欲を高め、課題化していく。第2学年の「A 数と計算」の(1)のオにおいて、分類整理したことから絵などをも用いた簡単な表やグラフに表す経験をしている。この経験から、表・グラフに表すとよみ取りやすい事に気づく。ここでは、表に表すことにする。次に項目に必要な事柄を書いていく。表には事前に表題・遊びの種類を項目を記入しておく。「遊びの種類」「人数」「合計」という項目は全体の意見で埋めていく。どの子も、記入漏れがないように支援する。

活動する段階では、自分なりにアンケート結果を分類整理し、集計する。「正しく整理する」ということをキーワードにして、正の字や を用いて手際のよい方法で集計する。集計の仕方が説明できるよう、集計の過程を残すよう指導する。

深める段階では、全体で集計結果を確認する。「正しく整理できたヒミツ」を全体の場で交流する。子ども達は、「自分が正しく整理できたのは、同じ種類ごとに印を付けて数えたからです。」「に残して数えたから、正しく整理できた。」「正の字を使うと、数えやすくて正しく整理できた。」などのヒミツを発表する。その中で、正の字を用いると、どのヒミツも満たされ正しく整理できることに気づく。

まとめる段階では、できる限り子ども達の言葉でまとめていきたい。

最後に、どの子にも、正の字を用いると落ちや重なりがなく、正確に集計することができることを感じ取らせるために2組の「好きな学級遊び」アンケート結果を集計する。

## 3. 研究テーマとの関わり

### 学ぶ楽しさと充実感を味わう算数教育の創造

- 重 点
- ・ねらいにせまる単位時間のあり方
  - ・子供の学びと算数的活動のあり方

子供が学ぶ楽しさや充実感を味わう姿として、「課題に対して自分の考えを持つ姿」と「できる、分かる喜びを味わう姿」と考えた。この2つの姿に子供が自分の力で近づいていくことを、どのような形で教師は、支援することができるのかを考えた。そこには、まず「基礎・基本の定着」があり、この定着こそが次の学習の礎になる。

そこで、この単元では、毎時間大切にしたい「基礎・基本について」明らかにし、(別紙単元指導計画参照)毎時間のねらいと、単位時間の活動を考え単元を仕組んだ。

また、本単元においては、算数的な活動を積極的に取り入れ、児童の主体的な活動を促し、ねらいにせまる子供の学びにつなげたい。

## 4. 単元の基礎・基本

- ・ 資料を分類整理して表（一次元表、簡単な二次元表）や棒グラフに表すことができる。

- ・ 表や棒グラフから数量をとらえたり、数量間の関係をよみ取ったりすることができる。
- ・ 表の作り方や棒グラフのよみ方、かき方を理解する。

## 5 . 観点別学習状況評価

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の事象を目的に応じた観点で落ちや重なりがなく分類整理し、進んで表や棒グラフに表そうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料を分類整理する目的に応じて観点を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料を分類整理して表（一次元表、簡単な二次元表）や棒グラフに表すことができる。</li> <li>・ 表やグラフから数量をとらえたり、数量間の関係をよみ取ったりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表（一次元表、簡単な二次元表）の作り方や棒グラフの読み取り方、かき方を理解する。</li> </ul>